

I 社会に開かれた教育課程

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じず、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

II 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点

- ◇ 主体的・対話的で深い学び
- ☆ 主体的な学び：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ☆ 対話的な学び：子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ☆ 深い学び：習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

III カリキュラム・マネジメントにおける学習指導要領の位置付け

各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実現状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

「小学校学習指導要領 総則 『第1 小学校教育の基本と教育課程の役割』」

IV カリキュラム・マネジメント

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

- ① **A** 教科のつながりの中で育まれる資質・能力がある（学びをつなぐ）。各教科・単元名を横断的に捉え、関係のある単元とクロスさせマネジメントすること。クロスカリキュラム（細野実践：国語と社会のカリキュラム・マネジメント「それぞれの教科の目標を達成しながら、「論理的思考力（表現力）・コミュニケーション能力＝言葉の力」を育成した実践」）国語＋社会＝WIN! WIN! の関係
- I** 各教科等の有機的な関連を図り、効果的な指導を図るための指導計画を作成する！
- ② 国・都・市の各種学力調査結果の徹底した分析⇒分析に基づいた改善プラン⇒DO⇒PDCAサイクル化
- ③ 地域資源を（関係機関、大学、企業、NPO等）徹底的に掘り起こし、教育活動に活用する。

V 拝二小における教科横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (1) 昭島市立拝島第二小学校では、児童の発達段階を考慮し、学習や生涯にわたる学びの基盤となる「論理的思考力・表現力」・「コミュニケーション能力」（言葉の力）を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科横断的な視点から教育課程の編成を図る。

\*1の目的：①地域に愛着をもち、公共の事柄に参画・貢献しようとする態度、②論理的思考力・表現力（根拠を持って主張し他者を説得する力）、③地域社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、④地域社会の諸課題を見だし、協調的に追究し解決（合意形成・意思決定）する力  
⇒上記の「\*1の目的」について、カリキュラム上は「地域への愛着」と表現する！

- (2) 昭島市立拝島第二小学校では、児童や学校、地域の実態及び児童の発達段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた「主権者教育（Citizenship Education）・地域への愛着」\*1を、教科横断的な視点で育成していくことができるよう、昭島市の特色を生かした教育課程の編成を図る。

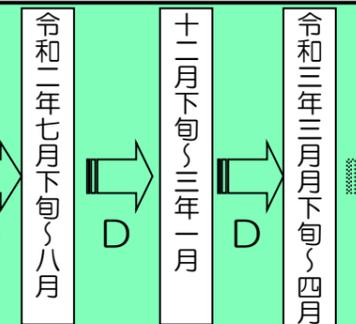
VI 拝二小における各教科等のカリキュラム・マネジメント

1 <8月30日～10月18日> 教科用図書採択後、教科用図書を基に、「学校経営グランドデザイン」、「新学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、次の観点から、各教科担当（縦串）が系統性を鑑み、年間指導計画案を作成する。〈観点〉目標/主な学習活動・内容/評価/論理的思考力（表現力）・コミュニケーション能力/主権者教育（地域への愛着）/各教科等の関連

2 <10月21日～11月22日> 年間指導計画案を、当該学年の各教科について「学校経営グランドデザイン」、「新学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、「1」の観点及びクロス・カリキュラム作成の立場から、各学年（横串）が年間指導計画案を改善・チェック（大胆に朱を入れること）する。

3 <11月25日～1月8日> 「2」を吟味・検討し、「学校経営グランドデザイン」、「新学習指導要領」、「地域・学校・児童の実態」、「各種スタンダード、校長からの資料」を踏まえ、「1」の観点から、各教科担当が系統性、クロス・カリキュラムが成立しているか年間指導計画を吟味・検討して完成させる。

原則「単元」ごとにC・A



「年間指導計画」は、1単位当たりの授業実践ができるレベルにする！

単元終了後・毎学期・毎年、修正を重ねつつ精度を高めていく！（PDCAサイクル化）